

# 一般質問

六月定例会では、六月三十日(月)、七月一日(火)、七月二日(水)の三日間、十七人の議員が市政に関する六十二項目の内容について、通告順に質問を行いました。その一部を紹介いたします。



…質問 A …答弁

## ● 財政再建 ●

**Q** 市職員の通勤手当支給方法の見直しについて

**A** 現在、市職員の通勤手当は、一ヵ月定期券相当額で毎月支給されている。民間企業のように、六ヵ月ごとへの支給に変更することで、有利な割引を受けられる。現在、毎月の通勤手当支給額はいくらか。また、六ヵ月へと切り替えた場合いくら削減できるのか。なぜ切り替えられないのか。

**A** 通勤手当は給与条

例の規定により、現在、国や近隣市と同様一ヵ月の運賃相当額を当月に支給し

## ● 文化振興財団の改革について ●

**Q** 市の外部団体の一つである文化振興財団のこの三年間の市からの助成金等の推移、人員体制の推移はどうか。改革の成果は見えてこないが、今後どのように財団を改革する

のかが具体策を示せ。事業の民間委託を図るべきか。今後どうしていくのかの補助金横ばい、委託金は業務内容の見直しを図り、減額してきている。人員が増減はないが、日給の臨時職員を時間給にしたり、三交代勤務をするなど工夫している。今後財団全域で再度調整し組織の統廃合も図りたい。名画試写会、コンサートなど民間事業も呼び寄せている

**A** 市の外郭団体の一つである文化振興財団のこの三年間の市からの助成金等の推移、人員体制の推移はどうか。改革の成果は見えてこないが、今後どのように財団を改革する

のかが具体策を示せ。事業の民間委託を図るべきか。今後どうしていくのかの補助金横ばい、委託金は業務内容の見直しを図り、減額してきている。人員が増減はないが、日給の臨時職員を時間給にしたり、三交代勤務をするなど工夫している。今後財団全域で再度調整し組織の統廃合も図りたい。名画試写会、コンサートなど民間事業も呼び寄せている

## ● 高齢者・市住・再開発・学校 ●

**Q** 学区統合、JR芦屋駅南地域開発について

**A** 市立芦屋高校の募生徒が勉強に打ちこめるようにすべきた。神戸第一学区との統合はいつか。JR芦屋駅南地域は再開発事業で駅前広場、駅前線の整備に取り組み、JR西日本とタイアップし二十四時間対応の保育施設やエスカーレーター設置等バリアフリー化に取り組めないか。

**A** 学区統合について

は、県教育委員会、神戸市教育委員会と現在最終の調整を図っている。JR芦屋駅南地域の開発は、南の玄関口にふさわしいまちづくりを行う必要があるが、早期事業化は、現在の財政状況では困難である。保育施設など事業が具体化した段階での検討課題である。

**Q** 高齢者バス代半額助成の復活を求める

四月からの高齢者バス代半額助成の廃止は、街や病院に出かける回数減らすなど高齢者の足を奪い、暮らしと社会参加に大きな影響を与えている。三千円の助成額は近隣市に比べて少ない。市民の声に耳を傾け、急がない大きな道路や公園の予算を削り、バス代半額

**Q** 健康増進法を受け受動喫煙防止の徹底をワークシヨップ

健康増進法には、自治体は国民の健康増進のため積極的に支援すべきという主旨がある。中でも

**Q** 市立芦屋高校の募生徒が勉強に打ちこめるようにすべきた。神戸第一学区との統合はいつか。JR芦屋駅南地域は再開発事業で駅前広場、駅前線の整備に取り組み、JR西日本とタイアップし二十四時間対応の保育施設やエスカーレーター設置等バリアフリー化に取り組めないか。

**A** 学区統合について

は、県教育委員会、神戸市教育委員会と現在最終の調整を図っている。JR芦屋駅南地域の開発は、南の玄関口にふさわしいまちづくりを行う必要があるが、早期事業化は、現在の財政状況では困難である。保育施設など事業が具体化した段階での検討課題である。

**Q** 高齢者バス代半額助成の復活を求める

四月からの高齢者バス代半額助成の廃止は、街や病院に出かける回数減らすなど高齢者の足を奪い、暮らしと社会参加に大きな影響を与えている。三千円の助成額は近隣市に比べて少ない。市民の声に耳を傾け、急がない大きな道路や公園の予算を削り、バス代半額

**Q** 健康増進法を受け受動喫煙防止の徹底をワークシヨップ

健康増進法には、自治体は国民の健康増進のため積極的に支援すべきという主旨がある。中でも

**Q** 市立芦屋高校の募生徒が勉強に打ちこめるようにすべきた。神戸第一学区との統合はいつか。JR芦屋駅南地域は再開発事業で駅前広場、駅前線の整備に取り組み、JR西日本とタイアップし二十四時間対応の保育施設やエスカーレーター設置等バリアフリー化に取り組めないか。

**A** 学区統合について

は、県教育委員会、神戸市教育委員会と現在最終の調整を図っている。JR芦屋駅南地域の開発は、南の玄関口にふさわしいまちづくりを行う必要があるが、早期事業化は、現在の財政状況では困難である。保育施設など事業が具体化した段階での検討課題である。

**Q** 高齢者バス代半額助成の復活を求める

四月からの高齢者バス代半額助成の廃止は、街や病院に出かける回数減らすなど高齢者の足を奪い、暮らしと社会参加に大きな影響を与えている。三千円の助成額は近隣市に比べて少ない。市民の声に耳を傾け、急がない大きな道路や公園の予算を削り、バス代半額

**Q** 健康増進法を受け受動喫煙防止の徹底をワークシヨップ

健康増進法には、自治体は国民の健康増進のため積極的に支援すべきという主旨がある。中でも

**Q** 市立芦屋高校の募生徒が勉強に打ちこめるようにすべきた。神戸第一学区との統合はいつか。JR芦屋駅南地域は再開発事業で駅前広場、駅前線の整備に取り組み、JR西日本とタイアップし二十四時間対応の保育施設やエスカーレーター設置等バリアフリー化に取り組めないか。

**A** 学区統合について

は、県教育委員会、神戸市教育委員会と現在最終の調整を図っている。JR芦屋駅南地域の開発は、南の玄関口にふさわしいまちづくりを行う必要があるが、早期事業化は、現在の財政状況では困難である。保育施設など事業が具体化した段階での検討課題である。

## ● 市営住宅、改良住宅の問題点について ●

**Q** 市営住宅の改良住宅の問題点について

市営住宅の改良住宅の問題点について

## ● 汚職・口利き疑惑の再調査と市民への報告 ●

**Q** 汚職・口利き疑惑の再調査と市民への報告

汚職・口利き疑惑の再調査と市民への報告

## ● トピックス ●

**議員提出の助役定数条例を廃止する条例を修正可決**

市長提出の助役選任議案の審議に先だち審査を行いました

今定例会初日の平成15年6月18日(水)に、議員から「芦屋市定数条例を廃止する条例の制定について」の提出がありました。

この議案は、震災後の平成7年に制定した助役定数を2人にする「芦屋市助役定数条例」を廃止し、助役を1人に戻すというものです。同日には、市長から本年3月で山内助役の任期満了に伴い人員となっていた助役の選任議案の提出がありましたが、助役定数条例の廃止案の審議結果が出た後に審議を行うことに決定し、まず、助役定数

例の廃止案の審査を行いました。総務常任委員会の審査では、議案提出者から、震災で膨らんだ歳出規模も震災前の規模に戻り、復興事業も事後処理を残すのみとなった。加えて財政難の状況で助役を2人にするのは民意に反しているという説明がありました。委員からは、復興事業が8割完成したとしても、残りの2割が非常に厳しい。これらが正念場の中、決定権のある市長、助役が住民交渉に当たるなど、2人助役で事業を早期に完成させる方が経費の削減につながる等、それぞれの

意見を述べ、議案提出者の見解をただしました。その後、委員からは、復興事業の早期完了と財政再建のためには2人の行政を知り尽くした助役が必要との市長の考えを汲みながらも、いつまでも2人とするわけにはいかないと、中野助役の任期満了の翌日、平成17年2月27日からこの条例を施行するという内容の修正案が提出され、採決の結果、賛成多数で修正案のとおり原案を一部修正し可決すべきものと決定しました。

6月30日の本会議で、委員長から報告を受け、審議を行いました。採決の結果、総務常任委員会の決定のとおり、賛成多数で修正可決しました。

また、市長提出の助役選任議案も同日に引き続き審議を行い、賛成多数で同意しました。(4面に記事)

会派名簿(大会派・届出順)

会派名	所属議員(○幹事長 ○副幹事長)
創政クラブ	○来田 守 ○青木 央 山村 悦三 都筑 省三 長野 良三
英明クラブ	○山田みち子 ○灘井 義弘 小川 芳一 松木 義昭
日本共産党	○田中えみこ ○木野下 章 平野 貞雄
公明党	○徳田 直彦 ○堀山 和也 田原 俊彦
ワークシヨップ	○重村啓二郎 ○中島 健一 寺前 尊文
新社会党	○山口みさえ ○前田 辰一
会派に属さない議員	大久保文雄 畑中 俊彦 幣原 みや 伊藤とも子

会派名簿(大会派・届出順)

会派名簿(大会派・届出順)